

. 海外編
4. その他

. 海外編

4. その他

No.21	
Cross Cultural Research in Palliative Care	
Author(s)	Field, Annette; Maher, Paul; Webb, David
Article	Social Work in Health Care
Vol/No/page	vol. 35, no. 1-2, pp. 523-543
Year	2002
<p>文化の異なる人々に対して、どのようにケアを提供するのは、グローバル化する社会において大きな問題の一つとなっている。</p> <p>多文化主義を標榜するオーストラリアでは、近年、非英語圏出身者の緩和ケアの利用ニーズが増加している。そして、ケアを提供する専門家も、また、文化的な違いによるニーズの違いによって、非英語圏出身者の患者やその家族への特別な配慮が必要であると認識し始めている。</p> <p>そこで、この研究では、ひとつのホスピスを事例に非英語圏出身の利用者のうち、上位 10 カ国の出身者をフォーカスグループとして設定し、3年間のカルテなどのデータを分析した。</p> <p>その結果、とくに死や死にゆく際には文化的にセンシティブなアプローチが求められていることが示されている。</p> <p>しかし、文化的にセンシティブなアプローチの実現を阻害する要因として、ケア専門家による記録の誤記が多くみられることが指摘されている。また、熟練した通訳の利用率の低さ（12.4%）やその確保の困難さなどが指摘されている。この他に、家族へのサポートニーズが増加していることなども報告されている。これらの知見から、筆者らはホスピスにおけるケア専門家への文化的にセンシティブなケアの実現に向けた教育の必要性と、そのための新しい戦略の構想を示唆している。</p>	

No.22	
The Role of Religion for Hospice Patients and Relatively Healthy Older Adults	
Author(s)	Ardelt, Monika; Koenig, Cynthia S.
Article	Research on Aging
Vol/No/page	vol. 28, no. 2, pp. 184-215
Year	2006
<p>高齢期においてしばしば感じる事となる死への不安や身体の変化、幸福感の低減などに対して、信仰がどのような役割を果たしているのか。どのような信仰のあり方が、死への不安という高齢者が否応なく直面する現実に対して、その不安を和らげるのか。</p> <p>この研究では、ホスピスの患者とその患者らに比べて比較的健康的な高齢者の二群を比較し、さらに死への不安や幸福感といった因子に対して、信仰の態度や宗教活動がどのように関連しあっているかをモデルを構築しパス解析をすることで分析している。</p> <p>その結果、ホスピスの患者と相対的に比較的健康的な高齢者間において、死への態度や本来的な信仰（合目的な信仰）、祈りの回数、人生の意義、社会経済的地位、人種などの違いが見られなかった。とくに死への態度においてホスピスの患者と比較的健康的な高齢者との間で違いが見られなかったことは特徴的である。また、本来的な信仰は死の受容と強い正の相関を示していた。</p> <p>これに対して、二群の違いとしては本来的な信仰と区別されて分析された信仰の態度である外来的な信仰（他の目的のための信仰、手段としての信仰）について比較的健康的な高齢者群より高い傾向が示されており、これは信仰の形態を区別なくあるいは見境なく行っていることを示している。また、ホスピス患者において外来的な信仰は死の不安と正の相関を、死の受容と負の相関を示しており、ホスピス患者にとっての信仰の質的な違いが示されている。</p>	

No.23	
Smart Homes' for Patients at the End of Life	
Author(s)	Demiris, George; Hensel, Brian
Article	Journal of Housing for the Elderly
Vol/No/page	vol. 23, no. 1, pp. 106-115
Year	2009
<p>居住者の QOL の向上と生活の自立のサポートを目的に、室内にセンサーなど居住者の生活をモニターする機器を備え付けた「スマート・ホーム」が世界的に広がりを見せている。</p> <p>この「スマート・ホーム」がホスピス利用者やその家族に与える可能性を考慮しつつ、倫理的問題について紹介している。</p> <p>スマートホームは主に「身体機能の監視」「危険防止面での監視」「生理学的な監視」「認知面でのサポート」「(犯罪などの)安全面での監視」「コミュニケーションの支援」の機能を持ち、居住者やその家族、周囲の人々の生活を支えるものである。</p> <p>しかしその倫理的問題点として、「プライバシー」「インフォームド・コンセント」「自律性」「人と人との接触の欠如」「住環境の医療化」「(機器の)押し付けがましさ obtrusiveness」の6つの倫理的課題を指摘する。</p> <p>筆者らはスマート・ホームを革新的なテクノロジーであるとしつつ、これらの課題の解決を図る必要性を訴えている。</p>	